

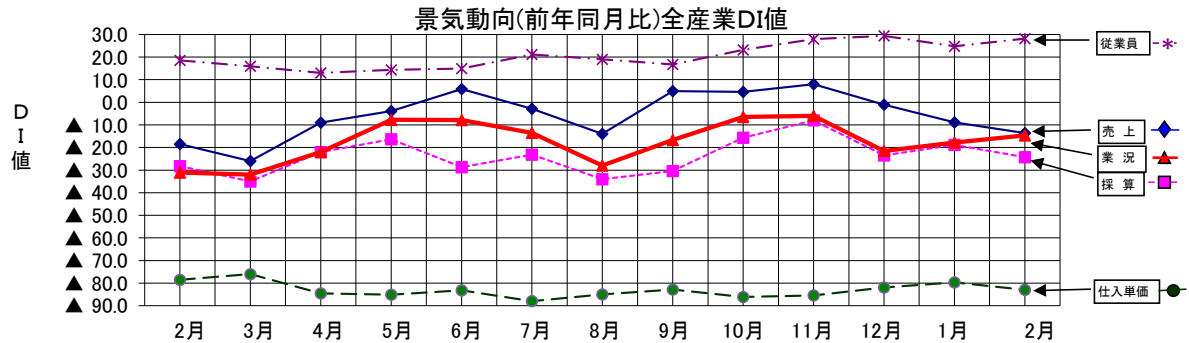
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 2月分

【2月の概要】

売上DIは3ヵ月連続悪化 価格転嫁、人手不足、賃上げ問題深刻に

業況判断を示すDI値は、「業況」以外は悪化、「売上」は3ヵ月連続で悪化となった。先行き見通しは、小幅な動きで前月から大きな変動は見られずほぼ横ばい。

コメントからは、資材高騰によるコストアップに苦勞しているとする回答が目立ち、価格転嫁も思うように実施できていない苦しさが見える。また、人手不足と賃上げ問題が深刻になってきている。新型コロナウイルスの第5類への移行を期待する声がある反面、ウィズコロナが定着し、以前のような状況に戻せるのか疑問視する声もある。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合) ※従業員=(不足)-(過剰)

	2022年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2023年 2月
売上	▲ 18.5	▲ 26.0	▲ 9.0	▲ 3.9	5.9	▲ 2.9	▲ 14.0	4.9	4.6	8.0	▲ 1.0	▲ 8.9	▲ 13.6
採算	▲ 28.2	▲ 35.0	▲ 22.0	▲ 16.4	▲ 28.7	▲ 23.1	▲ 34.0	▲ 30.4	▲ 15.7	▲ 8.0	▲ 23.5	▲ 18.8	▲ 24.3
業況	▲ 31.1	▲ 32.0	▲ 22.0	▲ 7.7	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 28.0	▲ 16.7	▲ 6.5	▲ 6.0	▲ 21.6	▲ 17.8	▲ 14.6
仕入単価	▲ 78.6	▲ 76.0	▲ 84.5	▲ 85.1	▲ 83.2	▲ 88.0	▲ 85.0	▲ 82.8	▲ 86.1	▲ 85.5	▲ 81.9	▲ 79.7	▲ 83.0
従業員	18.5	16.0	13.0	14.4	14.9	21.2	19.0	16.7	23.2	28.0	29.4	24.8	28.2

- ・プラス幅が増加したDI値：従業員3.4ポイント（人手不足局面へ）
- ・マイナス幅が減少したDI値：業況3.2ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：売上▲4.7ポイント、採算▲5.5ポイント、仕入単価▲3.3ポイント

向こう3ヵ月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
12月	▲ 11.8	▲ 28.4	▲ 24.5	▲ 57.8	33.3
1月	7.9	▲ 12.9	▲ 12.9	▲ 60.4	29.7
2月	4.9	▲ 11.7	▲ 11.7	▲ 61.2	28.2

- ・見通しが改善したDI値：採算1.2ポイント、業況1.2ポイント、従業員▲1.5ポイント（需給均衡局面へ）
- ・見通しが悪化したDI値：売上▲3.0ポイント、仕入単価▲0.8ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	ゼネコン	引き続き資材高騰によるコストアップ分の転嫁に苦勞している。
	リフォーム	二段階で値上げを実施するメーカーもあり今後も予断を許さない。電気料金の高騰で光熱費は過去最高となった。
製造業	鋼材	求人をしていても応募が非常に少ない。新卒・中途採用ともに給与額を上げる必要あり。
	印刷	原材料高騰による価格転嫁がなかなかできない状況に加え、賃上げ問題にも悩まされている。
卸売業	青果	大雪の影響により出荷量が減少し単価高で推移。青果物においても買い控えの傾向がみられる。
	食品	5月以降、新型コロナウイルスの第5類への移行に期待する。
小売業	印鑑・印刷	円安は落ち着くのか？コロナは収束するのか？ウクライナ情勢はどうなるのか？先行き不透明。
サービス業	ソフトウェア	景況の見通しが不透明な中で賃上げを先行していかねばならず、経営判断が難しい。
	運輸	電気やガスの他、2月からは食料品が約5,000品目値上げとなり、寒波と共に消費マインドも相当冷え込むと予想される。
	タクシー	ウィズコロナが定着し、以前のように戻るのかは不透明である。